

甲斐市立玉幡小学校 自己評価書

平成30年 1月31日(木)作成

校長 「望月 和彦」

記述 (教頭)「河野 瑞穂」

学校教育目標 『知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成』

学校経営方針 「毎日が楽しい学校にしよう」

- ① 適切な教育課程の編成と実施に努める。
- ② 学習規律の徹底と学習環境の向上を通して、確かな学力の育成に努める。
- ③ 思いやりの心が育つ学級・学校づくりに努める。
- ④ 児童の体力向上・健康増進に努める。
- ⑤ 安全教育の充実と開かれた学校づくりに努める。

1 全体評価

- ・「教職員自己評価」「保護者アンケート」「児童アンケート」の3つのアンケートを実施した。結果は、A評価(とても思う)とB評価(思う)を合わせて肯定的な評価として捉えることとした。
- ・全般的に教職員・児童・保護者のアンケート結果はどの項目も肯定的な評価結果であり、全体的に見て、本校教育の充実をうかがえる。
- ・児童アンケートでは、「学校が楽しいですか」「授業が楽しいですか」の質問項目にほとんどの児童が肯定的評価をしている。このことから、概ね児童は楽しい学校生活を送っていると言える。しかし、少数ではあるが否定的な評価もある。このことには、引き続き留意し、今後の適切な指導が必要である。

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

- | | |
|------|--|
| 達成状況 | ・「学校教育目標・学校経営」については、肯定的評価がすべての項目で100%であった。学校教育目標を踏まえた教育活動が計画的に行われている。また、学校全体では、PDCAサイクルを生かしながら、教育活動が展開されている。個人によるPDCAサイクルについては、さらに取り組みを進める必要がある。 |
| 改善策 | ・PDCAサイクルについては、今後も行事や活動の反省と保護者アンケートを実施し、全職員で課題と改善策を明確にし、次の教育活動に生かすことに組織的に取り組んでいきたい。日々の授業、学校行事等すべての教育活動にPDCAサイクルを意識していく。 |

II 学校運営について

- | | |
|------|---|
| 達成状況 | ・学校運営についても、すべての項目で肯定的評価がほぼ100%であった。特に「教職員間の相互理解と信頼関係」と「職務上の報告・連絡・確認」の項目は、A回答が8割を超えている。「危機管理マニュアルの理解」「校内研究への主体的な関わり」については、さらに努力を要する。 |
| 改善策 | ・2学期には清掃時の不審者対応訓練、3学期には職員の緊急時対応訓練を実施した。これからも学校や児童の実態に即した訓練や研修を通して、危機管理マニュアルへの理解を深め、PDCAサイクルを生かしてより良いものになるよう、全職員で取り組んでいく。
・校内研究や職員会議に、全職員が主体的に関われるような工夫をさらに進めていく。 |

III 学習指導について(児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

- | | |
|------|--|
| 達成状況 | ・教職員の自己評価では、学習指導については、肯定的評価がすべての項目で100%であった。「基礎基本の定着を図る授業」については、A評価が特に高い。一方「評価規準と評価方法を明確にした授業」「学びの意欲を喚起する授業」については、さらに努力を要する。
・児童・保護者アンケートからは、楽しく学校生活を送り、学習を楽しんでいる児童の姿が見えてくる。「家庭学習の各学年目標時間をほぼ達成している児童」は昨年度より増え約8割、「宿題を忘れずしている児童」は9割強、また、「自主学習をしている児童」も増加した。家庭学習習慣の確立が強化されてきたと言える。しかし、自主学習については、市全体の数値より10ポイントほど下回っている。
・平日に家庭で全く読書をしない児童が、約2割いる。また保護者の7割以上が子どもの読書時間は30分未満と答えており、家庭での読書習慣の確立には課題がある。 |
| | ・PDCAサイクルを授業に生かすためには、児童の見取り、評価が大切である。学習課題と共に |

改善策	<p>評価規準も明確にする授業づくりをおこなっていく。「やまなしスタンダード」に基づく授業改善をさらに進め、「玉小スタイル」の確立を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度3回目の「がんばるカード」は、毎日保護者にチェックをしてもらい、家庭での取り組みを見守ってもらった。「家庭学習の手引き」「玉小学習のルール」「がんばるカード」のねらいやこれらの効果について、保護者にさらに周知し、理解を深め、学校と家庭が両輪となってこれらを活用できるようにしたい。よりよい取り組みがなされるよう、さらなる改善と工夫をおこなっていく。 ・学校での朝読書の取り組みが家庭での読書につながるように、工夫・改善を図っていききたい。
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の自己評価では、生徒指導については、ほとんどの項目で肯定的評価が100%であった。「規範意識の醸成」「職員間での生徒指導上の情報の共有」については、A評価が特に高い。一方「問題行動の早期発見・早期対応」「実態に応じた生き方教育」については、より一層の取り組みの余地を残す。 ・「きまりを守る」「清掃をしっかりとる」「あいさつをする」「委員会活動」などについて、児童の肯定的回答が9割を超えている。依然として、児童の規範意識は高く、学校生活にまじめに取り組む児童の姿が見える。 ・多くの児童や保護者が「困ったときに相談できる友達や先生がいる」と回答している。少数だが「あまりいない、いない」との回答もあり、看過できない。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、きまりを守り、「甲斐っ子の宝」「玉幡小学校の宝」を意識して頑張っている児童の姿を認め、褒めながら、学校全体の自尊感情を育てていきたい。 ・職員一人一人が児童の問題行動への感受性をさらに高め、保護者と連携をとりながら、早期発見・早期解決を図っていく。また、問題の未然防止のための取り組みを工夫していく。 ・生徒指導委員会・特別支援委員会の機能をさらに高め、Q-Uも活用しながら、課題のある児童に対して、きめ細かな対応をしていく。また、スクールカウンセラーや関係機関との連携をさらに強めて、児童指導にあたっていく。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価での地域との連携については、肯定的評価が高い。特に「お便りやHPでの広報」についてはA評価が高い。一方で、「保護者のPTA活動へ協力」や「学習指導や生活指導への保護者の協力」「保護者の要望などの情報収集」などに、さらなる改善が期待される結果となった。 ・保護者の肯定的回答が全般に高く、授業参観、学校開放日等により、学校の様子が保護者によく伝わっていることがわかる。「学校は、保護者・地域の声を聞いている」についても、ここ2年、前年度より数値が上がっている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、おたよりやHP、授業参観や学校行事を通じて保護者や地域に情報を提供してきた。これからも学校の思いを積極的に伝えとともに、PTA・学校評議員会・関係者評価委員会での話し合いやアンケートの実施によって保護者や地域の意見・要望を積極的に取り入れていきたい。 ・各担当が、連絡帳や電話でのやりとり、家庭訪問等をしながら、保護者と丁寧に関わってきた。これらを引き続き行いながら、保護者との信頼関係を築いていく。 ・学校応援団「チームたまはた」の積極的な活用を通して、保護者・地域との連携を深めたり、ネットワークを広げたりしていきたい。外部団体のリーダーと連絡調整をするなど、学校にもボランティアの方々にも負担にならないような運用を模索していきたい。
<p>3 まとめ</p> <p><成果>・学校教育目標、学校経営方針の全職員の共通理解もと、適切な学校運営ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域と学校が良好な関係を築いている。連携協力のもと、人間性豊かな児童の育成を目指し、学校教育活動が推進されている。 <p><課題>・児童の意欲を喚起する授業づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での自主学習等の取り組みのさらなる充実を図る。 ・読書活動の推進をする。 ・学校応援団「チームたまはた」の活用や授業や行事を積極的に公開することを通して、開かれた学校づくりに取り組む。 ・すべての子が楽しく登校できる学校・学級づくりをする。 	